

## 【学位論文審査の要旨】

本学位論文は、作業療法（以下、OT）の臨床リレーズニング（以下、CR）自己評価尺度（Self - Assessment scale of clinical reasoning in Occupational Therapy : SA- CROT）の妥当性と信頼性の検討を目的とした一連の研究から構成されている。

副論文 1 で、先行研究に対するスコアレビューを行い、日本の OT 臨床実習における教育評価の開発と使用に関する課題を明確にした。そして、副論文 2 では、OT 領域の CR 概念を、解釈的方法かつ時間的変化に敏感な方法である Rodgers concept analysis (Rodgers 2001) を用いて分析し、共通のフレームワークを構築した。

副論文 3 では、OT 領域の卒前卒後教育のための作業療法の CR 評価尺度 (Assessment scale of Clinical Reasoning in Occupational Therapy ; A-CROT) を開発のため、項目を作成し、コンセンサス形成法を実施し (content validity ratio に基づいた) 40 項目から構成された暫定尺度の内容妥当性を検証した。

副論文 4 では、新人教育における学習者と教育者の経験を再帰的テーマ分析に基づいて質的に記述し、A- CROT の有用性を確認した。

主論文は、開発した A- CROT を自己評価尺度 (SA- CROT) としてその妥当性 (構造的妥当性、仮説検証) と信頼性 (再検査信頼性、内的一貫性) は、ラッシュモデル分析を用いて、検証した。

申請者は、上記のすべて研究を、尺度開発論や教育評価論両方の国際基準と主要なガイドライン、そして現代の先進的教育論に沿って緻密に計画・実行した。

申請者の研究には高い新規性と独創性が認められた。また、今後の課題として、下記の課題を特定した。

- ① 評価尺度の使用者マニュアルの作成と改訂
- ② SA- CROT の尺度特性 (基準関連妥当性, 反応性, 解釈可能性等) の検討
- ③ 他者による学習者の CR 評価の開発, 妥当性と信頼性の検討
- ④ CR の効果的な学習・教育方法に関するエビデンスの特定

学位論文審査基準の項目 (博士)	評価
明確である研究の目的・意義	秀
適切な研究デザインと計画	優
データ収集とデータ分析の実施	秀
研究の成果, 限界, 今後の課題に対する考察	秀
作業療法の発展に寄与する内容	秀
新規性があり, 科学的価値	秀
研究のテーマに関する専門性	秀

上記より、申請者は作業療法領域の CR の自己評価尺度 (SA-CROT) の妥当性と信頼性の検討を目的とした研究課題に真摯に向き合い、当尺度の開発をし、信頼性妥当性などの検証は、砒的尺度としての十分な質を担保する一連の研究を実施した点では、研究者としての優れた資質を有すると評価される。さらには本研究結果において、重要な示唆を得た点において作業療法の卒業前後教育上、極めて先駆的な研究に位置付けられる。

以上のことから、本研究が博士論文として適格であり、本申請者が博士の学位（作業療法学）を授与するに相応しい知識と研究能力を備えていると判定する。